

経営発達支援計画

令和5年度事業報告書

(実施期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日)

目標達成度自己評価基準

- A：達成することができた（100%以上）
- B：概ね達成することができた（80～99%）
- C：半分程度しか達成できなかった（30～79%）
- D：ほとんど達成できなかった（30%未満）

弥富市商工会

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

実施した内容

【数値目標】

項 目	R4 年度	R5 年度		R6 年度	R7 年度	R8 年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
①RESAS による分析 公表回数	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
②景気動向調査 分析・公表回数	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回

評 価

実施した効果・課題

アンケートの実施により市内の経済動向が把握できた。本報告書の作成は年度終盤となるため活用は次年度となるが、市内の景気動向を知るデータとして必要性も高く、経営計画策定の際に参考資料として活用する。

次年度の対応（改善）

次年度も引き続き市内事業所への経済動向調査を実施し、国・県などの経済動向資料を盛り込んだ、より活用しやすいものとし経営計画策定時の参考データとして活用する。

2. 需要動向調査に関すること

実施した内容

- (1)
- (2)

【数値目標】

項 目	R4 年度	R5 年度		R6 年度	R7 年度	R8 年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
①消費者需要動向調査事業者数	者	2者	者	2者	2者	2者
②展示会などを活用した需要動向調査事業者数	者	2者	者	2者	3者	3者

評 価

実施した効果・課題

2 事業所において消費者アンケートを実施したところ、ニーズやサービス内容など、消費者の声を聞くことができた。本年も 1 事業所では商工会職員が現場で直接アンケートのお願いをした。回収数は目標に達しなかったが多くの消費者から聴取することができ、そのアンケート内容を集計し、マーケットインの考えを事業所に伝えたことで、今後の経営計画に活かすことができた。

また、事業者自身ではなかなか出来ないアンケート調査であるが、消費者の声を聴く機会と捉え多くの消費者からアンケートに協力してもらえる工夫が必要である。

次年度の対応（改善）

次年度も消費者需要動向調査を引続き実施することで、消費者ニーズを知る絶好の機会と捉え、マーケットインの考えにより事業所の課題洗い出しを支援し、経営計画の参考とする。

3. 経営状況の分析に関すること

実施した内容

【数値目標】

項 目	R4 年度	R5 年度		R6 年度	R7 年度	R8 年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
①セミナー開催回数	回	2回	回	2回	2回	2回
②経営分析事業者数	者	15者	者	15者	15者	15者
③分析調査専門家派遣事業者数	者	3者	者	3者	3者	3者

評 価

C

実施した効果・課題

セミナー参加者が少なかったため、周知の徹底に努める。また、日頃から経営分析の大切さをPRし、決算書をもとに分析された数値による経営内容の理解度を高める。

次年度の対応（改善）

次年度も引続き経営分析セミナーを開催するとともに、分析の必要性を巡回等で周知する。自社の経営内容を数値化し強みと弱みを把握することで、事業計画書策定につなげる。

また、セミナーに参加できない事業所については、「経営自己診断システム」等を活用し、分析結果を提供することで経営状況を把握できるよう努める。

4. 事業計画策定支援に関すること

実施した内容

- (1)
- (3)

【数値目標】

項 目	R4 年度	R5 年度		R6 年度	R7 年度	R8 年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
①事業計画策定セミナー	回	2回	回	2回	2回	2回
②創業セミナー	回	2回	回	2回	2回	2回
④DX推進セミナー	回	1回	回	1回	1回	1回
事業計画策定事業者数(※)	者	10者	者	10者	10者	10者

評 価	A
-----	---

実施した効果・課題

事業計画策定セミナーを2回実施し、参加者は3事業所ではあったが1回を個別型セミナーとしたことで、各事業所の実情に合った計画策定手順を知ることができた。実際に計画を策定するには、自らが自社をよく理解することが重要となるため、強み弱みを知ることができるよう事業者に寄り添い引き出す支援が必要である。

創業支援においては、セミナーを通じ希望者の掘り起こしができ、基礎的な知識の取得に至ったが、創業までには結び付いていない。

事業承継においては、必要性を説いてはいるものの計画策定までには至っていない。

次年度の対応（改善）

次年度は事業計画策定セミナーを開催し、計画策定の重要性を周知し持続的経営を目指した経営力の強化を図る。さらに、事業計画策定段階でのDXに向けた意識の向上を図り、策定に反映させるためDX推進セミナーを開催する。

創業支援は創業支援計画が3年目を迎え、創業者の掘り起こしは出来てきたため、希望者が創業できるように伴走支援に重点を置く。

事業承継については、引き続き早期の準備の必要性を説き、他の支援機関や専門家を活用し、計画策定につなげる。

4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

実施した内容

【数値目標】

項目	R4年度	R5年度		R6年度	R7年度	R8年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
事業計画策定後のフォローアップ事業者数	者	30者	者	30者	30者	30者
頻度(延回数)	回	96回	回	96回	96回	96回
売上増加事業者数	者	6者	者	6者	6者	6者
付加価値額3%以上増加の事業者数	者	6者	者	6者	6者	6者

評価

C

実施した効果・課題

計画した内容が適正に遂行されているかを巡回等で確認し、課題解決に向け事業者と共に取り組みを行なったところ、課題解決に一定の成果が得られた。3か月に1度のフォローアップを計画しているが、支援事業所に偏りがあった。

次年度の対応(改善)

支援対象事業所が必然と補助金申請者に偏ってしまうが、補助金申請者と合わせてセミナー参加者へのフォローアップなど専門家の活用も含め実施する。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

実施した内容

(1) 販路開拓支援

販売力の弱い小規模事業者に、4月のやとみ春まつり会場において商工会PRコーナーにて製品の展示販売を行なえる機会を提供した。限られたブースに3事業所が出店し、来場者へのPRと新規顧客獲得に向けた取り組みを行なった。

各種展示会や商談会の開催情報など、販路拡大に向けた取り組みにつながる手段としての情報を提供した。本年は“しんきんビジネスフェア”へ2事業所、また“国際福祉機器展”へ1事業所が出展され、出展に関してのサポートを行った。

本会ホームページでは会員企業紹介コーナーにより、会員事業所を紹介することで、新規顧客獲得に向けた情報を発信している。

本年も販路開拓支援に関連のある「小規模事業者持続化補助金」申請等のサポートを行い、事業者の新たな取り組みに対して支援を行った。

【数値目標】

項 目	R4年度	R5年度		R6年度	R7年度	R8年度
	実績	目標	実績	目標	目標	目標
①展示会等出展事業者数	者	2者	者	2者	2者	2者
商談件数	件	4件	件	8件	8件	8件
成約件数	件	1件	件	2件	2件	2件
② ネットショップ等への出店者数	者	2者	者	3者	3者	3者
売上増加事業者数	者	1者	者	1者	1者	1者
③ ECサイト利用・開設者数	者	2者	者	3者	3者	3者
売上増加事業者数	者	1者	者	1者	1者	1者

評 価	
-----	--

実施した効果・課題

市内イベント会場で、商工会PRコーナーを設け3事業所が出展され、多くの来場者へ知ってもらう機会が提供できた。イベントには大勢の来場者があり、様々な事業所を紹介する機会と捉え、商工会として地域事業者の情報発信の場として活用していく。

インターネットでの情報発信はHPが必要不可欠となっているため、HPのない小規模事業者へ、無料で作成できるグーペなどの作成ツールを紹介し活用を勧める。

展示会等へ出展した事業所では、新規取引先の獲得や消費者へ広くPRができたことで、今後の取り引き拡大に期待できる。

次年度の対応（改善）

販路開拓・拡大に向けた取り組みであるため、次年度においても展示会等の情報提供に努める。また、インターネットでの販路開拓支援ではグーペ等の活用を勧め、HP作成につなげる。

新たな販路開拓等につながる取り組みに対しては、持続化補助金の活用を提案し、申請等に対し寄り添った支援を行う。

Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

2. 経営指導員等の資質向上に関すること

【目的】

経営発達支援事業を効果的かつ円滑に実施されるため、県連等が主催する研修会に積極的に参加し、OJTにより職員の支援能力の向上を図る。

実施した内容

項目	開催時期	参加者		得られる効果
		予定数	実数	
愛知県商工会連合会主催経営指導員等研修（一般コース）	6月	3名	2名	経営指導支援能力、知識向上
愛知県商工会連合会主催経営指導員等研修（特別コース）	6月、7月、8月	3名	2名	経営指導支援能力、知識向上
中小企業大学校瀬戸校（旧基礎Ⅰ）	6/17～7/12	1名	1名	経営指導支援能力、知識向上
中小企業大学校瀬戸校（専門研修）	8/19～21	1名	1名	経営指導支援能力、知識向上
中小企業大学校瀬戸校（専門研修）	9/25～27	1名	1名	経営指導支援能力、知識向上
経営支援事例発表会	8月	3名	3名	他の商工会支援事例を学び経営支援能力の向上
管理職研修会	1月	1名	1名	商工会運営管理知識向上
中堅職員研修会	8月	2名	1名	中堅職員の知識・支援能力向上
情報化推進要員研修会	10月	1名	1名	情報化知識向上、情報化支援力向上
基本能力研修会	1月	2名	2名	若手職員の基礎知識、支援力向上
愛知県商工会職員協議会主催研修会	6月、11月	5名	2名	職員の知識・支援力向上
商工会2年目職員研修会	10月、11月	1名	1名	職員の知識・支援力向上
海部支部商工会職員協議会主催研修会	年1回	5名	2名	職員の知識・支援力向上、情報交換
海部支部商工会職員協議会第2委員会主催研修会	年1回	3名	3名	経営指導員の知識・支援力向上、情報交換

海部支部商工会職員協議会第3委員会 主催研修会	年2回	3名	3名	補助員等の知識・支援力向上、情報交換
----------------------------	-----	----	----	--------------------

評 価	B
-----	---

実施した効果・課題

県連主催の研修会や海部支部が行う研修会などへの参加は、職員のスキルアップにつながるため、概ね予定通りの職員を参加させることができた。研修後の復命書で内容確認はできたものの、学んだことをどのように支援につなげるか検討し、職員全体の知識習得に向けた取り組みを行う。

次年度の対応（改善）

次年度も職員の支援能力アップ、質の向上を図るために県連等が行う研修会に積極的に参加できる体制を構築し、OFF J Tでは個々の知識向上として習得し、またO J Tでは職員全体のレベルアップを目指し、業務遂行の健全化を図る。

3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

【目 的】

毎年度、本計画に記載の事業の実施状況及び成果について、評価・検証を行い事業遂行に向け、委員から意見を聴取し次年度の事業計画改善につなげる。

実施した内容

評価委員会を開催し、事務局から事業内容の報告を行った。委員会では報告内容についての評価及び検証を受け、次年度に向けた改善案の検討を行う。

また、報告書を作成し理事会（書面議決による）の承認を受け、その内容を本会ホームページに掲載する。

評 価	A
-----	---

次年度の対応（改善）

評価委員会により地域事業者の支援につながっているか検証し（見直し含む）、次年度への取り組みにつなげる。